

## 創世記25 創世記15章1節～6節

### 「アブラムの義認」

#### イントロ：

##### 1. 前回までの復習

- (1) 第6の区分「テラの歴史」、アブラハムの物語が続いている。
- (2) 人類は、3回大失敗をした。
- (3) 第4の方法：神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (4) これまでのアブラムの歩み
  - ①神から、子孫、土地、祝福の約束を受けた。
  - ②それを信じて、カルデヤ人のウルから約束の地に向かった。
  - ③約束の地に着いて、各地に祭壇を築いた。
  - ④飢饉をさけるために、エジプトに下った。
  - ⑤約束の地に帰り、ロトと分離した。
  - ⑥ロトを救出するために、4人の王たちと戦った。

##### 2. きょうの箇所は、その戦いの後のことである。

- ①アブラハム契約の確認になっている。
- ②アブラハム契約の子孫の要素：15：1～6
- ③アブラハム契約の土地の要素：15：7～21

##### 3. メッセージのアウトライン

- (1) What does it say? 何を言っているか。
- (2) What does it mean? どういう意味か。
- (3) What does it mean to me? 私とどういう関係があるか。  
特に、新約聖書の教えからきょうの箇所を見たい。

##### 4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 聖書が教える救いとは何かを教えている。
- (2) 異端と言われる宗教は、すべてこれから外れている。
- (3) クリスマンと自称していても、これから外れているなら、救われていない。
- (4) どの宗派に属しているかは問題ではない。真の信仰があるかどうか問題である。
- (5) その単純さのゆえに、疑いを抱く人が多い。真理とは単純なものである。

このメッセージは、聖書が教える救いとは何かを教えている。

### I. What does it say? 何を言っているか。

1. 「これらの出来事の後」 14章の王たちとの戦いの後
  - (1) 3度目のアブラハム契約の確認が与えられる。
  - (2) 神がアブラムに現れるのは4度目。
  - (3) 今回は、「主のことば」が臨んだ。「主のことば」が初めて聖書に出てくる。
  - (4) 「幻」のうちに。アブラハム契約が正式に締結される。
  
2. 最初のことば。「アブラムよ。恐れるな」
  - (1) 聖書に出てくる最初の「恐れるな」である。
  - (2) イサクに対して 創26:24。
  - (3) ヤコブに対して 創46:3。
  - (4) 族長たちは、人生のある時点で恐れを感じた。
  - (5) アブラムの場合は、英雄的な勝利の後での恐れである。
  
3. 恐れる必要がない2つの理由
  - (1) 「わたしはあなたの盾である」
    - ① 4人の王からアブラムを守ったのは、神ご自身である。
    - ② 神を盾にたとえる最初の例である。
    - ③ 「盾」はヘブル語で「マーゲン」である。
      - \*ダビデの盾(マーゲン・ダヴィッド)、あるいは、ダビデの星。
      - \*しかし、聖書は「ダビデの盾」については何も語っていない。
      - \*あるのは、「アブラムの盾」だけである。
  - (2) 「あなたの受ける報いは非常に大きい」
    - ① 神ご自身が報いである。
    - ② 神が与える財もまた報いである。
    - ③ アブラムは戦利品を受け取ることを拒否したが、神からの祝福を受けている。
  
4. ここは、神とアブラムの初めての会話である。
  - (1) 「神、主よ」ヘブル語では「アドナイ・ヤハウエ」、「私の主、ヤハウエよ」となる。
    - ① 「アドナイ」と「ヤハウエ」が連結して出てくる最初の例。
    - ② この章では、2回出てくる(8節)。
    - ③ モーセの律法では、申3:24と9:26のみ。
  - (2) 「私に何をお与えになるのですか。私には子がありません」

①アブラムの恐れの原因：財産は十分にあるが、相続させる子がいない。

(3)「私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか」

①ハムラビ法典や古代メソポタミア・ヌジ遺跡出土文書の規定と同じ。

②子のない夫婦は、奴隷を養子にして、相続人とすることができる。

(4)「あなたはわたしに子を賜わないので」

①再度、恐れについて語る。

(5)「わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとなるでしょう」

①エリエゼルは、ダマスコから来た奴隷の息子。

②そして、アブラムの家で生まれた。

5. 次に、神の約束が与えられる。「主のことば」が2度目に出てくる。

(1) 否定的な内容：「その者があなたの跡を継いではならない」

(2) 肯定的な内容：「ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならぬ」

(3) この時点では、サライがその子の母であるとは言われていない。

6. ここまでは天幕の中。神はアブラムを天幕の外に連れ出し、こう言われた。

(1)「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい」

(2) もちろん、アブラムは数えられない。

(3) そこで、さらにこう言われた。「あなたの子孫はこのようになる」

(4)「地のちり」と「空の星」について

①創13：16「わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう」

②「地のちり」と「空の星」とは同義である。数えられないほどの多数。

③前者を地上の民イスラエル、後者を霊的民である教会と解釈するのは間違い。

④ここでの文脈は、アブラムの肉の子の話である。

⑤地のちり 創28：14

⑥空の星 創15：5、22：17、26：4

⑦海辺の砂 創22：17、32：12

創22：17「わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう」

7. アブラムは義とされた(6節)。

## II. What does it mean? どういう意味か。

1. 「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた」(6節)
  2. 聖書の救済論(救いの教理)が示されている。
    - (1) 信じた。
      - ①創12:1から、アブラムには信仰があった。
      - ②ここは、彼が主の約束のことばを信じたということである。
      - ③つまり、アブラハム契約を信じたのである。
    - (2) 神の応答
      - ①認めた。「帰した」。
      - ②義と。
  3. 誤った救いの理解
    - (1) 旧約時代の聖徒たちは、十字架を待ち望む信仰によって救われている。
    - (2) 新約時代の聖徒たちは、十字架を振り返る信仰によって救われている。
  4. 救いの原則は不変である。
    - (1) 信仰の対象は、神。
    - (2) 信仰の内容は、その時に啓示された約束。
    - (3) 救いの方法は、信仰により恵みによる。

## III. What does it mean to me? 私とどういう関係があるか。

1. ロマ4:3
  - (1) アブラハムは、行いによってではなく、信仰によって救われた。
  - (2) 「聖書は何と言っていますか。『それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた』とあります」
2. ガラ3:6
  - (1) アブラハムは、律法を行うことによってではなく、信仰によって救われた。
  - (2) 「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです」
3. ヤコ2:21~23
  - (1) アブラハムは、イサクをささげたことにより、その信仰が本物であることが証明した。
  - (2) 換言すれば、彼の信仰の成長が証明されたということである。

(3) 「私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行いとともに行ったのであり、信仰は行いによって全うされ、そして、『アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた』という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです」

## 結論

1. What does it say? 何を言っているか。
  - (1) アブラハム契約の再確認。
  - (2) アブラムは、神の約束を信じた。
  
2. What does it mean? どういう意味か。
  - (1) 人が救われる方法は不変である。
  - (2) 信仰により、恵みによって救われる。
  
3. What does it mean to me? 私とどういう関係があるか。
  - (1) 創15:6は、新約聖書と直結している。
  - (2) 私たちの場合は、信仰の内容が変化している。
  - (3) 福音の3要素
    - ①キリストが私たちの罪のために死なれた。
    - ②墓に葬られた。
    - ③3日目に復活された。
  - (4) 神は救いの道を用意された。
  - (5) 私たちの責務は、それを信じることである。